

「篆書の形を基にした白川文字学の伝播」

優秀賞



兵庫県 篆書同好会「明響会」

主宰 藤田 美佐子（而響）

20年間の篆書学習の集大成として『篆書千字文ものしり文字学』を自費出版。執筆活動2年半の間に白川文字学の魅力に惹かれ、今はこの世界に没頭しています。執筆中は只々調べることが面白い毎日でした。漢字教育士の資格も何もない篆書愛好家ですが、毎月1回漢字会を開いています。毛筆による篆書同好会も立ち上げ、字義に基づく作品互評会などもしています。

この受賞を機にさらに学びを深め、自信をもって伝播していこうと決意を新たにしております。白川静先生を尊敬する先輩たちとの交流もたくさん生まれました。一人では何もできませんでしたが、いろいろな方々から勇気と知恵をいただき受賞することができました。

1 実践の概要

『篆書千字文ものしり文字学』自費出版に始まり、口コミによる大人向け「月曜漢字会（月1回）」や市児童施設での「親子かん字会（月1回）」の開催、身近な「篆書カレンダー」の制作など、自己研鑽から伝播活動へと広がっていった。

2 実践の内容

(1) 『篆書千字文ものしり文字学』2016年10月自費出版

篆書を書き始めて20年、字義を大切にしたい小篆体の本を制作した。同一文字のない千字文は好適の題材。右頁には四字四句の毛筆篆書、左頁には特記すべき字義を短文で記した。甲骨文や金文に字義がはっきりわかる文字もあるので下欄に自筆した。



(2) 「普段着の白川文字学・月曜漢字会」2017年10月より開講

本により面白さを伝えることはできたようだが、詳しいことを聞きたいとの声があり漢字会を開催。毎回20名ほど参加者がいる。馴染みのある旧字体から字義を紐解くなど、普段着の文字学と銘打って取り組んでいる。年末には「篆書カレンダー」を手作り制作し、日常生活に溶け込ませている。



(3) 「親子かん字会」2018年1月より休日、夏休みに開講

講義形式では1時間は無理があり、今は遊び感覚を取り入れて、「友・北・走・自・看」などの古代文字について、身体を動かし楽しく学んでいる。

3 実践の成果

本出版が、私にとって白川静漢字教育の始まりとなった。文字理解のみにとどまらず、伝えなければ字義は忘れ去られる。「親子かん字会」では、大人達が目を輝かせて聴いてくれる。造形として書いていた文字が、成り立ちを知ることによって生きたものとなる。白川先生の本は難しいという言葉をよく聞くが、少しでも身近なものになればと思い、「寶・醫」を自分独自の古代文字に変えてみるなどして楽しんでいる。わかりやすく伝えるためにはそれなりの努力が要る。「學」と「教」、両者を上手く融合させて邁進していきたい。